

令和3年度中間期自己評価書

令和3年8月 愛南町立城辺小学校

【評価基準】					判定	考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標		目標	評価者	目標値 肯定90%以上			
1	社会総がかりで取り組む教育	1 CSの研究と実践による開かれた信頼される学校づくりを行う。	教職員	100	A	A	◆概ね肯定的に捉えられている。 ◇今年度も、1学期は新型コロナウイルス感染症予防のため、運動会や参観日、PTA総会等が、延期や中止となってしまった。そのような中でも、保護者・地域関係者に支えていただきながら、学校運営ができています。今後も、保護者や地域、学校で連携し、できることを考えながら信頼される学校づくりに取り組んでいきたい。
			児童				
			保護者	92	A		
			地域関係者	96	A		
	2 地域の人的・物的環境を活用する。	2	教職員	85	B	B	◆概ね肯定的に捉えられているが、評価としてはB判定である。地域関係者の肯定率は100%であり、学校に対する協力の大きさがうかがえる。しかし、コロナ禍のため、従来の学校と地域とのつながりのある教育活動が思うように実施できなかったことが、教職員の中にも、もっと地域の人やもの等と関わりながら、従来のような教育活動を進めていきたいという思いがある。しかし、関わり方に制限がある中でも、地域の人的・物的環境を活用できるような方策を模索していく。
			児童				
			保護者	89	B		
			地域関係者	100	A		
学校運営協議会委員の所見		○アンケート結果から、教職員、保護者、地域関係者、ほとんどの方が「学校の応援団の一人となるよう努めている」と回答している。地域全体で協力して、子供を見守り、支えていることができると感じる。 ○学校・家庭・地域の三者一体となって、児童の教育と生活を考える機会が継続して実施されていることに感謝している。コロナ禍でも、この体制が途切れることなく柔軟に対応してほしい。 ○コロナ禍でのイベント中止が多く、登下校以外に児童を見かけない。休日中の見守り強化を継続したい。地域でできることは、協力する。必要に応じて声を掛けてほしい。 ○オンライン授業のような形で地域とつながりのある教育活動は考えられないか。					
学校の対応		○新型コロナの感染状況により、今年度も「制限」の多い教育活動となっている。そのような中でも、「児童のためにできること」を第一に考えて、実践していく。そのために、「児童にどのような力を身に付けさせたいのか」「何をどのような形で行うのか」など、職員で共通理解し、共通実践していく。必要に応じて、保護者や地域に支援や協力を得ながら進めていく。 ○オンライン授業で地域とつながる教育活動は、実現に向けて少しずつ進めていく。2学期は、社会科や総合的な学習の時間を活用して、地域の人的・物的環境の活用を考えている。					
2	一人一人を見つめ、育てる生徒指導の徹底と健全育成の推進	3 「いじめは絶対に許さない、見逃さない」学校づくりに努める。	教職員	100	A	A	◆概ね肯定的に捉えられている。 ◇肯定的に捉えられてはいるが、100%の肯定率を目指したい。そのためにも、さらに保護者や地域との連携を行い、共通理解を図っていく。また、日々の児童との関わりや生活アンケートから児童の実態把握に努め、いじめの早期発見に努めていく。
			児童	93	A		
			保護者	93	A		
			地域関係者	98	A		
	4 「凡事徹底・積小為大」と規範意識の醸成を図る。	4	教職員	100	A	A	◆概ね肯定的に捉えられている。しかし、挨拶に関する項目は、保護者・地域関係者・学校ともに低い。また、保護者・地域関係者の評価からは、家庭や地域での児童の生活や遊びの様子は、きまりがきちんと守られているとは言えないことが分かる。 ◇挨拶や規範意識の醸成については、日常的に学校で指導しているが、まだ児童に浸透しているとは言えない。そのため、保護者や地域関係者と連携を図りながら、今後も継続して指導していきたい。
			児童	91	A		
			保護者	89	B		
			地域関係者	95	A		
学校運営協議会委員の所見		○アンケート結果から、ほとんどの児童は、「楽しい学校生活を送っている」ことが分かる。一人一人が周りのことを考えて学校生活を送ることで、思いやりや規範意識は高くなっているのではないかと感じる。地域住民としては「安心できる」と感じている。欲を言えば、全員が「学校が楽しい」と答えられればよいと思う。 ○児童が「いじめ」と自覚する前の小さな出来事を、見逃さずしっかりと対応する姿勢が学校側から強く感じられる。判断から初動、その後の具体的な対応まで準備されており、安心できる。児童と教職員の日々の関わりを大切に、信頼関係の構築に努めてほしい。 ○挨拶、規範意識の醸成については、地域からの良い影響と、保護者自身が子どもと共に学び、成長する意識付けが不可欠である。これまで以上に地域と保護者が共に学ぶ機会を与えていただきたい。					
学校の対応		○「学校が楽しい」「自分の子どもは学校が楽しいと言っている」と児童も保護者も言ってもらえるように、一人一人の児童に寄り添った教育活動を進めていく。そのために、児童の様子を観察し、気になることがあれば、教育相談や保護者への連絡など、学校と保護者の連携を図る。 ○挨拶をはじめ、規範意識の醸成については、「凡事徹底・積小為大」を押さえながら、「城っ子のきまり」を再確認し、継続的な指導を図る。保護者や地域への協力依頼もどんどん行う。					

【評価基準】					考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標	目 標	評価者	目標値 肯定90%以上			判定
3	5 授業力の向上 (主体的・対 話的で深い学 び、個に応じ た指導、ICT活 用)を図る。	教職員	100	A	A	◆保護者アンケートは「学習内容を理解しているか」という質問のため、100%になるのは難しいが、概ね肯定的である。 ◇ICTの活用や補充学習を継続し、学習内容の定着に努め、学校内での状況や情報を保護者に発信していく。
		児 童	95	A		
		保護者	80	B		
		地域 関係者	96	A		
	6 家庭学習の習 慣化に努め る。	教職員	90	A	C	◆出された宿題を継続的にできる児童とそうでない児童との差が大きいのではない か。 ◇学力向上推進計画で決めた取組を行い、みきゃん通帳を保護者に見せるなどして、 学校での読書の様子を知らせる。 ◇質問内容の変更や、時間・ページ数などの具体的な数値等を記載するなど、学年末 に向けて検討する。
		児 童	65	C		
		保護者	62	D		
		地域 関係者				
	6 家庭読書の習 慣化に努め る。	教職員	90	A	C	◆学校での読書をしている児童の様子を保護者は、知らないのではないか。また、 「本をよく読んでいる」ことの基準にばらつきがあることも考えられる。 ◇学力向上推進計画で決めた取組を行い、みきゃん通帳を保護者に見せるなどして、 学校での読書の様子を知らせる。 ◇質問内容の変更や、時間・ページ数などの具体的な数値等を記載するなど、学年末 に向けて検討する。
		児 童	65	C		
		保護者	62	D		
		地域 関係者				
	7 道徳教育の充 実と自他よう さを認め合う 集団づくり に努める。	教職員	100	A	B	◆概ね肯定的であるが、児童アンケートの「先生に相談できる」の項目で、先生に相 談できない児童がいる。 ◇機会を捉えて教育相談を行い、児童が相談しやすい環境づくりに努める。 ◇全教育活動を通じて道徳教育の推進と相手を思いやる「優しい言葉」を使える児童 の育成に努める。
		児 童	85	B		
		保護者	86	B		
		地域 関係者				
8 自己の体力向 上・健康保持 増進に取り組 む態度を育成 する。	教職員	100	A	B	◆マスク着用や暑さが原因で外に出たがらない児童が増えているのではない か。 ◇休み時間や昼休みに教室にいる児童に、外で遊ぶように積極的に声を掛ける。 ◇生活習慣を整えるように、学級での指導内容等を学校・学級便り で家庭に啓発する。 ◇秋頃には、マラソン大会に向けて縄跳びやランニングを推奨する。 ◇今年度は、タブレット端末を使う時間や機会が多くなっている ので、体への影響を考慮した使い方の徹底を図る。(長時間利用しない。目を休ませる。など)	
	児 童	85	B			
	保護者	88	B			
	地域 関係者					
学校運営協議会委員の 所見		○家庭では、テレビやゲームなどの誘惑も多く、集中して学習や読書ができにくい状況なのかなと思う。家庭学習と家庭読書の習慣化は、家庭でのルールを決めたり、学習に関心を持ってもらうように考えたりするなど保護者の課題でもあるのかなと感じる。そこには、生活習慣も関わってくるのではないかな。家庭学習の内容や量等を考えることで、学習意欲に結び付けることも可能なのではないかな。 ○授業を参観した際の、先生方の熱心な指導と、児童の真剣な表情が印象深い。一人一台タブレット端末の活用により、自分の考えが出せやすくなっていると感じる。 ○生活習慣の改善や読書と運動の継続は、勉学や心の発育に良い影響を与えらると思う。保護者と連携して、小学生の段階で定着できる機会を与えてほしい。				
学校の対応		○授業力の向上に関しては、タブレット端末の効果的な活用で、個に応じた指導が充実するように努める。それが、主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう授業研究を行う。 ○家庭学習と家庭読書の習慣化に関しては、家庭学習の内容(タブレット端末の持ち帰り等も含む)を検討し、家庭への啓発など学校として取り組むことができるよう努める。家庭読書については、「家庭読書の日」(仮称)を設定するなど改善策を考え、取り組む。 ○学校行事や体験活動等と道徳教育の関連を図りながら「自他のよさ」「望ましい集団づくり」など、人間関係の形成や合意形成等に努める。 ○自己の体力向上や健康維持のために、養護教諭の話や学校医からの情報を児童や保護者に提供する。				

【評価基準】					判定	考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上				
4	地域と連携した安全教育の充実と安全・安心な教育環境の整備	9 家庭や地域、関係諸機関との連携・協力に努める。	教職員	93	A	A	◆教職員・保護者・地域関係者のすべての項目で高い肯定率である。しかし、児童が安全・安心な毎日を通うことができるようにするために、100%を目指すべきである。 ◇学校だよりやホームページ等で継続的な情報発信を行う。 ◇通学路・学校施設など、教職員は常に「安全かどうか」を考え、点検を行う。また、保護者や関係機関等との連携・協力を密にし、情報を得るようにする。
			児童				
			保護者	96	A		
			地域関係者	100	A		
	10 系統的実践による危機回避能力・対応力、自助・互助・共助の育成を図る。	教職員	100	A	A	◆教職員・保護者・地域関係者のすべての項目で高い肯定率である。 ◇学級活動、避難訓練、交通安全教室等を通じて、安全な過ごし方について具体的に指導する。インターネットサイトを利用して、危機察知能力を高める。 ◇保護者と協力しながら「避難訓練」、「交通安全指導」を実施する。	
		児童	97	A			
		保護者	97	A			
		地域関係者	97	A			
学校運営協議会委員の所見		○交通安全や防災に関する意識など、学校と地域の方々から、多くの学びの機会と指導をいただいている。保護者よりも子どもの方が、意識が高い事柄も多い。今後も継続してほしい。 ○かけがえのない命を守ることを最優先して、安全教育を進めてほしい。守ってもらうことも大切であるが、「自分の命は自分で守る」意識を育てることも大切である。 ○改善策があるように、学校だよりやホームページの継続的な情報発信は大切だと思う。学校のことを知ってもらうことで、連携や協力が強まることもある。 ○現状では難しいかもしれないが、地域関係者を加えた「避難訓練」の実施をするというのではないかな。					
学校の対応		○災害はいつ起こるか分からないことや自分の命は自分で守ること等を日々の学級指導や学級活動の時間等で継続指導する。 ○放課後や登下校の見守り、休み中の児童の様子など、学校への情報提供のお願いを保護者や地域に行く。警察や公民館など関係機関との連携も強化する。 ○引き渡し訓練は、今年度も予定している。可能であれば、地域関係者にも呼び掛け、その様子を見ていただき、来年度以降の避難訓練の在り方について再考する。					
5	人権・同和教育と特別支援教育の充実	11 差別の現実に学ぶ研修と実践に努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者ともに高い肯定率である。コロナ禍での感染者に対する差別や誹謗中傷の現実と関連させながら、道徳科や学級活動での指導を行うことで、子どもたちに人権意識を育てることができたと思う。学校・学年便り・ホームページ等で、保護者・地域関係者に発信したことがこの結果につながっていると考える。 また、教職員の研修会において、定期的に校長を講師とする人権・同和教育に関する研修を実施することにより、教職員の意識も高まった。 ◇今後も研修に努め、人権・同和教育指導計画を基にしながら、差別の解消につながる意欲や態度・技能をもった児童の育成に努める。また、参観日等で人権・同和教育に関する内容を授業公開し、学校・保護者・地域との連携・協働に努める。
			児童	94	A		
			保護者	93	A		
			地域関係者				
	12 児童一人一人の教育的ニーズを把握した組織的・継続的な指導・支援に努める。	教職員	100	A	B	◆全体的に高い肯定率であるが、教職員とそれ以外との意識に差がある。また、児童アンケートの中で「先生に相談できる」という項目が80%を下回り、昨年度のBからCになった。児童が満足するような対応ができていないことも考えられる。 ◇懇談会や学校運営協議会等を利用して保護者や地域関係者が望む「児童一人一人の教育的ニーズ」の把握に努め、指導・支援に役立てていく。 ◇定期的な生活アンケートや教育相談を活用しながら、普段から「先生に相談できる」人間関係作りや雰囲気作りに努める。また、学校として「いつでも、だれにでも」相談できる体制が整っていることを児童にも保護者にも具体的に周知する。	
		児童	79	C			
		保護者	84	B			
		地域関係者	98	A			
学校運営協議会委員の所見		○子どもとのやりとりの中で、人権・同和教育について学年の発達段階に応じた意識が育っていると感じる。今後も、学校・保護者・地域との連携・協働を行ってほしい。また、特別支援教育についても、一人一人の教育的ニーズに合わせて、きめ細かな対応をしていただいている。非常に感謝している。 ○学校からの「コロナ禍での差別等に関する手紙やメール」は、ありがたい。身近なところで起こっている新しい問題をみんなで考えることができ、意識が高まる。基本は、「よりよい人間関係を育てること」にあると思う。 ○教師の「聴く力」を発揮して、児童を受け止めてほしい。自分が大切にされた経験は、人を大切にできる態度へつながると思う。そのような教育を進めてほしい。					
学校の対応		○人権・同和教育の充実については、校長や人権・同和教育主任を中心に、校内職員研修会や人権・同和教育懇談会(参観日)の実施、地域への学校広報に努める。学校・保護者・地域との連携の強化を図る。 ○特別支援教育の充実については、一人一人の教育的ニーズを把握し、職員での共通理解を図る。また、教育効果が期待できる学習内容や指導・支援方法を考え、共通実践を行う。さらに、日々の関係職員での話合いの時間を設定する。					

【評価基準】					判定	考察(◆)と改善方策(◇)
重点目標	目 標	評価者	目標値 肯定90%以上			
6	13 GIGA スクール構想の意義を理解した具体的な実践を生み出す組織的な研修に努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・保護者ともに高い肯定率である。 ◆コロナ禍だが、タブレット端末・デジタル教科書を活用し、各学年に応じた学習形態を工夫・改善しながら、研修の充実が図られた。 ◆ICT指導員のきめ細かいサポート体制や定期的な教職員や支援員に対する研修が充実している。 ◇児童に寄り添ったICTを活用した授業等の実践方法を構築していく。 ◇引き続き、組織マネジメントを生かした研修の充実に努める。城辺小学校の教育目標を実現するために、学校・家庭・地域が連携・協働していく体制の確立にさらに努めていく。PDCAサイクルを生かし、学校の実情を分かりやすく情報発信していく。
		児童				
		保護者	97	A		
		地域関係者				
	14 教員育成指標に基づく、個人目標の設定とPDCAサイクルによる自己研鑽に努める。	教職員	100	A	A	
		児童				
		保護者				
		地域関係者				
学校運営協議会委員の所見		○ニュースで他の学校では、一人一台のタブレット端末利用は、2学期からなどと聞くこともあるが、城辺小学校は、早くから準備を進めていただきありがたい。アンケートで、ほとんどの児童が「コンピュータを使った学習は楽しい」と回答していることから、新しい形態の授業にも柔軟に対応できていると感じる。 ○学校が、より良い教育環境づくりへ挑戦する姿勢を感じる。「チーム城辺」として努力されている様子が伺える。 ○引き続き、自己研鑽や「進化する教師集団」の育成に努めてほしい。 ○児童への熱意と地域の方や保護者と接する際の真摯な対応に、大変感銘を受けている。				
学校の対応		○一人一台タブレット端末の活用は、軌道に乗っている。2学期は、授業のどの場面で活用することが「主体的・対話的で深い学び」の実践に効果的なのかなど、課題を明らかにし、全校体制での授業研究を通して検証していく。 ○愛媛県が示している教員育成指標「キャリアステージ」における各教員の目指すべき姿を確認し、各自で反省を行うと同時に、今後の目標を設定し、自己研鑽に努める。 ○「チーム城辺」として、学校・保護者・地域の連携・協働の推進に努める。				



< 1学期の学校運営協議会の様子 >